

IMPACT 01

将来世代の未来を共に創る

一つ目のテーマが、将来世代の未来です。気候変動により、刻一刻と私たちの未来、地球環境が破滅に向かっていきます。これがほかのいかなるものを望む前に解決すべき喫緊の課題です。私たちはその中で、グリーンリカバリーを成す2点、「脱炭素社会」と「サーキュラーエコノミー」を実現するための選択肢を社会に提示することで、将来世代が不安を抱くことなく過ごせる地球環境を未来に残します(詳しくはP26～)。

IMPACT 02

一人ひとりの「しあわせ」を共に創る

二つ目のテーマは、一人ひとりの「しあわせ」です。私たちはどこか息苦しい毎日を生きています。当たり前という常識の壁、人間関係によって生じる心の葛藤、個人の能力とは比例しない格差。しかし誰もが、それぞれ本来の姿を取り戻し、個がエンパワーするような社会を望んでいます。私たちはその中で、金融・投資・消費の観点から、皆さま一人ひとりの「自己実現」と「好き」を応援します(詳しくはP40～)。

OUR IMPACT

IMPACT 03

共創のプラットフォームをつくる

「インパクト」実現の鍵を握るのが、共創の場づくりです。丸井グループがめざす社会は、私たちだけで実現することはできません。私たちの想いに共感してくださる皆さまとの共創により、エコシステム全体でつくり上げるものです。私たちは企業として現在持っているリアル店舗・エポスカード・IT技術や社員というアセットを外部と共有することで、共創からイノベーションの創出をめざします(詳しくはP68～)。

“将来世代と共にインパクトを起こそう”
丸井グループの宣言です。

IMPACT

IMPACT

IMPACT

IMPACT

IMPACT

IMPACT

IMPACT

将来世代と共にインパクトを起こそう

WHAT'S OUR IMPACT?

インパクトとは何か？

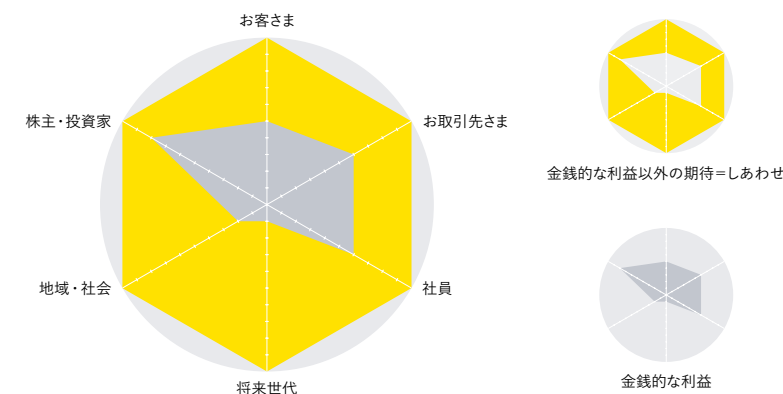
2021年5月、丸井グループは3つのテーマからなる「インパクト」を発表しました。これは2050年の未来を見据えた丸井グループの新たな宣言であり、企業として実現したい方向性を明確化したものです。

ここでいう「インパクト」とは、社会に与える変化や影響のことです。では、なぜ今「インパクト」なのか。それは私たちが定義する企業価値が、すべてのステークホルダーの「利益」と「しあわせ」を調和・拡大させることであるからにほかなりません。私たちには6つのステークホルダーがあり、彼らが丸井グループに求める「利益」と「しあわせ」も異なります。金銭面で言えば、社員の給料、株主の配当、商品の価格、お取引先さまの原価など、それぞれが対立する項目のように見えます。一方で、金銭では測れない「しあわせ」は、人類共通の価値として、ステークホルダー同士が重なる部分も非常に多いのではないのでしょうか。

「インパクト」とは、そういった「利益」と、目には見えにくい「しあわせ」を測るための新たな指標です。丸井グループは今後、何をすることでステークホルダーや社会に価値ある変化を起こしていくのか。ステークホルダーが私たちに求めることの中で、丸井グループが応えられること、応えたいことを3つのテーマに絞り、「将来世代の未来を共に創る」「一人ひとりの『しあわせ』を共に創る」「共創のプラットフォームをつくる」と設定しました。

丸井グループはこれらの「インパクト」を達成することで、世界に存在するあらゆる二項対立を乗り越え、すべての人が「しあわせ」を感じられるインクルーシブで豊かな社会を実現していきます。

ステークホルダーが求める「利益」と「しあわせ」(仮説)



IONS

FUTURE
GENERA-
TIONS

WHY FOCUS ON FUTURE GENERATIONS?

なぜ将来世代なのか？

丸井グループのステークホルダーの特徴は、その中に「将来世代」がいる点です。2019年、2050年に向けた長期ビジョンを策定した際、私たちのステークホルダーに加えました。将来世代と共創することで、サステナブルな社会、Well-beingな社会をつかっていきたいという想いを込めています。

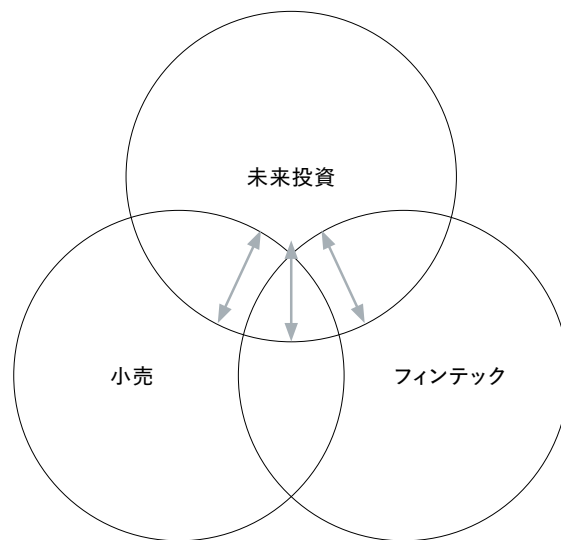
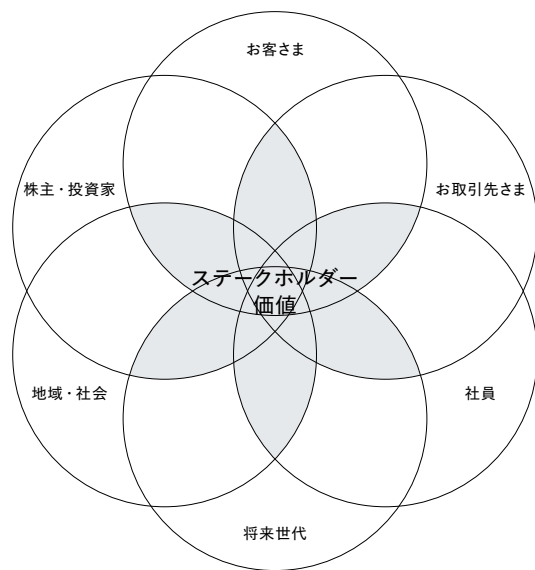
私たちは「よき祖先になれるだろうか」。これは英国の気鋭文化思想家、ローマン・クルツナリックが、短期思考から長期思考へ転換すべき必要性を説いた著書『グッド・アンセスター』（あすなろ書房）からの一説です。

この問いかけは今や、かつてないほど切実なものになりつつあります。私たちは「人新世」と呼ばれる時代—すなわち人類の文明、その経済活動やライフスタイルの影響が地球環境の自己回復能力を超えるほどまでに膨張してしまった結果、人類の生存そのものが危機に瀕するようになった時代—を生きているからです。その最たるものが気候変動で、未来を植民地化してきたとまでいわれています。

現世代の私たちは、さまざまな反省から国を挙げてサステナビリティに取り組むようになり、多くの企業がステークホルダーとして環境や地球を加えています。しかし、それには違和感がありました。環境や地球というステークホルダーとは、いったい誰なのかという問いです。

私たちが守ろうとしているのは地球そのものではなく、地球に暮らす未来の人類。つまり、私たちにとって大切なステークホルダーは「将来世代」なのだという結論にいたりました。これが、丸井グループが「将来世代」を6つ目のステークホルダーに加えた理由です。

私たちは「よき祖先になれるだろうか」と自問するだけでなく、「よき祖先であれ」という決意を持って行動に移します。



価値観：6ステークホルダー・ガバナンス

実行：三位一体ビジネスモデル

方向性：インパクト

丸井グループがめざす姿

MARUI GROUP'S DIRECTION

丸井グループがめざす姿

丸井グループはこれまで、私たちがめざす姿として、「ミッション」や「ビジョン」を提示してきました。めざす姿が明らかになったことにより、私たちと共創していただけるパートナーとの多くの出会いがありました。それと同時に、「ミッション」や「ビジョン」で共感し合ったとしても、実際にビジネスを進めていく過程で齟齬が生じる事例があったのも事実です。これは、私たちが提示しためざす姿がまだ不明瞭だったからだと考えました。

今回、私たちが特に注力したい3つのテーマに絞った「インパクト」を設定したことは、社外からはもちろん、社内から見ても、丸井グループが向かおうとしている方向性が明確化されました。次ページより、IMPACT 01「将来世代の未来を共に創る」、IMPACT 02「一人ひとりの『しあわせ』を共に創る」、IMPACT 03「共創のプラットフォームをつくる」を詳しくご紹介します。